

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 都島区
学校名 内代小学校
学校長名 原田 哲次

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・内代小学校では、第6学年 34名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

昨年度は全国、大阪府・大阪市より国語、算数とともに同程度の結果となったが。その後、基礎・基本の定着を目指して学習を進め、ICTの活用を進めながら意欲的に学習に取り組んできた。その結果、今年度は全国と比べて国語では5.2ポイント、算数では8ポイント、理科においても4.9ポイントその平均点を上回るという結果となった。学習に対する興味関心をうまく学習に結び付けられたことも、これだけの成績を残すことができた要因の一つと考える。また特記すべき事項は国語、算数とも平均無回答率がほぼ0であり、わからない問題に対してあきらめるのではなく、何とか答えを導き出そうとしている姿勢が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 今年度は「読むこと」「書くこと」において全国の平均を上回り全体的な平均点では10ポイントも上回った。しかし、「情報の扱い方に関する事項」において全国や大阪府・大阪市の平均を下回る結果であった。課題解決に向けて、資料の読み取り、活用に関する単元の学習に重点を置いた授業を行い、資料の内容に関する読み取りを正確にできる力をつけたい。また、時には複数の資料から必要な情報を集め、求められていることについてまとめて表現できるような力をつけてほしい。

[算数] 算数科において、ICTの活用を行ながらの研究が3年目を迎える。その研究の成果が実を結び子どもたちの学力は大きく伸びている。どの領域においても全国平均を上回り、基礎基本が身に付いてきているといえる。課題としては、この状態をいかに続けられるかということにある。学校一丸となり、各学年がそれぞれの発達段階に応じて基礎的な力が確実に定着するよう取組を継続していく。

質問調査より

本校では、力があるのに「自信をもって学習活動に取り組み、表現している児童」が多いとは言えない。その状況を鑑み、学校全体で子どものよいところを見つけてほめることに重きを置いて取り組んできた。その結果、質問項目の「自分には、よいところがある」「先生はよいところを認めてくれていると思う」では、昨年度に引き続き肯定的な回答がほぼ100%となり、取組が定着している。今後も継続して学校行事を充実させながら自尊感情の育成に努める。また今年度重点を置いて取り組んでいるICT機器を活用した学習、子どもたちが自ら課題を見つけ探究する自主学習では、大きな成果を上げることができた。この取組が、子どもたちの学ぶ意欲、学力向上にもつながるように支援していきたい。

今後の取組(アクションプラン)

本校ではR4年度の調査結果から、算数に課題があるととらえ、R5年度から算数を研究教科に設定し、基礎基本の定着を目指して教育活動を行っている。特に一昨年度から継続して取り組んでおり毎日5分間の計算タイムは基礎基本の定着に効果があらわれてきている。今後は算数の学力向上と合わせて学ぶ意欲にも重点を置き、積極的にICT機器を活用していく。また今年度も引き続き、漢字検定を取り組んでいる。漢字練習を自主学習として取り組んでいる児童も多く、家庭学習の柱になればと考えている。「認めて（ほめて）伸ばす」ということを念頭に置き、自尊感情をはぐくむとともに児童の学習意欲を高め、学習理解が深まるようにICT機器を活用しながら授業改善を行う。生活習慣においては、心身ともに健やかに成長できるよう学校全体で同じ方向に向かって取り組むことを大切にし、保護者と協力しながら進めていく。